

## 2023 年度「諸外国語初級 A・B 単位認定試験」について

社会学部

## 1. 諸外国語初級 A・B 単位認定試験（概要）

- (1) 選択必修科目である「諸外国語初級 A・B」の履修と単位修得について、I 群言語科目（ドイツ語、フランス語、中国語）に限り、これを「諸外国語初級 A・B 単位認定試験」に合格することによって代え、単位認定をおこなう。
  - (2) 単位認定については以下の通り行われる。
    - ・合格者は、「S」とする。
    - ・合格者は、単位認定の事務課への申し出は不要である。
    - ・認定単位は合格年度の春学期、秋学期にそれぞれ 2 単位ずつ認定され、認定単位は各期の履修上限単位数に含まれる。
  - (3) 学生は毎年度 1 言語科目に限り受験できる。（同時に 2 言語以上の受験はできない）
  - (4) 単位認定試験合格者については、I 群言語の以下の科目の履修ができる。
    - ・2022 年度以降入学生  
総合科目に配置されている、「諸外国語プログラム」のうち、合格した言語に関する 2 年次配当科目の履修が可能（3・4 年次配当科目を履修する場合は所定の追加条件あり）。  
履修希望者は、授業開始前に社会学部事務課に申し出ること。
    - ・2021 年度以前入学生 ※必修として選択した言語以外の言語を受験する学生  
専門科目に配置されている、合格した諸外国語の中級プログラムの科目の履修が可能。  
履修希望者は、授業開始前に社会学部事務課に申し出ること。
- ※ 入学年度によりカリキュラムが異なるため、科目区分や科目名称等に注意すること。

## 2. 受験資格を有する学生

- (1) 新入生
- (2) 2022 年度までに入学、編入、転部した社会学部学生のうち必修として選択した言語以外の言語を受験する学生

対象学生	受験資格	
新入生	新入生	○
2022 年度以前入学生 (在学学生)	必修として選択し、前年度不合格、未受験であった学生	×
	必修として選択した言語以外の言語を受験する学生	○

## 3. 試験出題範囲、内容（文法事項、単語数等）

「初級」ガイドラインに沿った内容とし、当該年度、あるいは前年度の共通テキストに準拠する。聴き取りと口述の試験は実施しないが、音声に関する問題を出題することでこれに代える。

各言語の概要については別紙掲示を参照すること。また、各言語の準拠する教科書をガイダンス期間中、社会学部事務課で閲覧のみ可能である。

## 4. 実施日時、会場等

- (1) 日 時 2023 年 4 月 5 日（水）9:15（集合）、9:30～10:30（試験） ※試験時間は 60 分間
- (2) 会 場 社会学部棟 201 教室
- (3) 方 式 筆記（参照不可）
- (4) 合格発表 2023 年 4 月 6 日（木）9:00～ Web 掲示板

※ 受験する言語の各種検定試験（HSK や中国語・フランス語・ドイツ語検定試験など）の成績通知書を持っている人は、学習歴の把握などの参考資料とするため、試験当日、会場（201 教室）へ持参してください。単位認定試験の可否には関係ありません。

以上

## 2023 年度「諸外国語初級 A・B 単位認定試験」各言語の概要

### ドイツ語

- ・ 準拠する教科書  
小野寿美子他『アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語』（朝日出版社、2019 年）
- ・ 試験の内容  
発音、文法、読解、日常的な表現にかんする問題を出題する。
- ・ 試験の範囲  
文法については、以下の事項を試験範囲とする。  
人称代名詞、動詞の現在人称変化、名詞の性・数・格、冠詞、冠詞類、疑問文、語順、命令形、前置詞、接続詞、副文、非人称の es、話法の助動詞、分離動詞、再帰代名詞、再帰動詞、形容詞の格変化、形容詞・副詞の比較、zu 不定詞（句）、動詞の三基本形、過去形、現在完了、受動態、関係代名詞  
以下の文法事項は試験の対象外とする。  
形容詞の名詞化、不定関係代名詞、過去完了、未来形、現在分詞、接続法

### フランス語

- ・ 準拠する教科書  
加賀野井秀一『フランス語の彼方に』（朝日出版社、2018 年）
- ・ 試験の内容  
基礎的な日常表現の単文を構成するのに必要な文法知識。綴り字と音に関する理解についても問う。
- ・ 試験の範囲  
主語人称代名詞、不定冠詞・定冠詞・部分冠詞、形容詞の性・数一致と位置、中性指示代名詞、所有形容詞、疑問文、否定文、指示形容詞、定冠詞の縮約、人称代名詞の強勢形、疑問代名詞、疑問副詞、疑問形容詞、中性代名詞 y, en、数量の表現、非人称構文、比較級・最上級、数詞、補語人称代名詞、関係代名詞、受動態、強調構文  
動詞は、直説法（現在、近接未来、近接過去、複合過去、半過去、単純未来、代名動詞）と命令法

### 中国語

- ・ 準拠する教科書  
大石智良他『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』（東方書店、2010 年）
- ・ 試験の内容  
出題は、簡体字、漢語拼音（ピンイン、ローマ字）を用いる。解答には繁体字を用いてもよい。漢語拼音（ピンイン、ローマ字）で解答する問題も出題する。
- ・ 試験の範囲  
動詞述語文（連動文、能願動詞 [助動詞]、兼語文、存現文を含む）、形容詞述語文（比較表現も含む）、名詞述語文、主述述語文、修飾語（連体修飾語 [定語]、連用修飾語 [状語]）、アスペクト（態、相）、補語、介詞を用いた構文（受動文 [“被”などを用いる表現]、処置文 [“把”を用いる表現]）

以上